

2025 年度事業計画(案)

《方針》

当館は、地域の美術と文化を発掘し、振興を図るとともに、画家加納莞薔の平和思想を広く広める活動を行う。

目的

美術館を運営し、美術工芸品の展示公開、調査研究等を行い、  
合わせて芸術鑑賞の意識を高め、地域に根ざした芸術文化の発展に寄与すること  
を目的とする。

事業内容

- (1)美術館の管理運営
- (2)美術館資料の公開、保管、展示
- (3)美術館資料に関する調査研究、講演会、研究会等の開催
- (4)芸術鑑賞の意識を高め、「画家加納莞薔の目指した恒久平和へ向けての思い」をベースに地域芸術文化の発展に寄与するための事業
- (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《現状の分析》

当館は年間来館者 10000 人を長く目標にし、実現もしてきたが、ここ数年は減少傾向にあり、2024 年度約 8000 人(アウトリーチ含む)にとどまっており、入館料収入にも大きく影響を与えている。

(参考:2019 年 17,971 人、2020 年 4,315 人、2021 年 11,038 人、2022 年 8,770 人、2023 年 7,997 人 )

その要因としては以下のことが考えられる・

- ・コロナの影響で変化した「外出控え」がいまだもとに戻っておらず、団体客が減少していること
- ・従来来館者としてターゲットとしていたファン層の高齢化が進んでいて、人数も減少していること。
- ・運転免許返納者が増えるなか、公共交通機関(イエローバス)の連絡・本数が少なく移動手段を持たない人が多くなったこと。
- ・65 歳以降も就業する人が多くなり、余暇時間が減っていること。
- ・「友の会」などの組織をつくっていなかったため、美術館に積極的に関わる層をつくっていなかったこと

I 独自事業

1. 加納莞薔とエルピディオ・キリノの思想・業績を広く世に伝え、また、次世代へとつなぐ。
  - ① 加納莞薔と外国の要人や機関との往復書簡を安来市の文化財として指定することに向けた活動
  - ② ユネスコ「世界の記憶」登録再申請のため発信に努めるとともに、下記の各機関の協力を得るなどして、機運を醸成する。
    - 島根県、安来市、安来市教育委員会等の関係部局
    - 島根大学ほか、大学などの学術機関(研究活動)
    - 平和に対する活動をしている諸団体
    - フィリピン国内の関係諸団体
  - ③ 学校(児童・生徒)、交流センター、また地域内外の各種団体への講演活動
  - ④ バーチャル展示により、加納莞薔の思想・業績について、オンラインで公開を目指す。

2. 美術品の修復及び購入

- ①加納莞薔(辰夫)の作品について適宜行う。

3. 加納美術館での企画展を実施(2025 年度予定)

企画:三つのキーワードをもとに立案する

- ①平 和 ②地域性と地元出身作家 ③収蔵品活用

4～6 月 バーナデット・ワッツ 絵本原画展(企画買取)[平和]  
(予算 約 370 万円)

7～9 月 昭和 100 年 安部朱美人形展 (安来市平和のつどい 関連事業)[平和・地域・地元]  
(予算 約 190 万円)

10～12 月 こうげいやすぎ式 広瀬絢のいま 永田佳子と伝習生[地域・地元]  
(予算 約 150 万円)

1～3 月 鈴木禎三陶展 窯変天目と備前焼(収蔵品を含む)[収蔵品活用]  
(予算 約 110 万円)

## Ⅱ 委託事業(指定管理 2023～27 年度)

### 1. 安来市加納美術館の運営全般(安来市より委託)

- ・市条例に基づき管理・運営。
- ・収蔵品を活用した展覧会開催
- ・施設・設備の管理

### (Ⅰ・Ⅱの共通項目)

#### ①資料の収集・保存について

作品修復を適宜行う

寄託・寄贈作品の受け入れを行う

デジタル台帳(データベース)を完成させ、活用する

#### ②調査研究について

デジタルデータベースを活用する

他機関(博物館、美術館等)と相互協力

#### ③展示について

常設展 加納莞蓄展 通年展示する

収蔵品展 随時もしくは企画展に合わせる

#### ④教育普及:下記を適宜実施する

対話型鑑賞会「アート de トーク」

講演会

ワークショップ

名碗を愉しむ会

アウトリーチ(出前授業・出前展示)

バーチャルミュージアムの構築を検討する。

データベースを活用した音声ガイドを実用化する。

#### ⑤ 地域連携

市内各施設や、文化協会、しまねミュージアム協議会などアソシエーションと強く連携する

#### ⑥ 観光振興

市や県の観光協会や各部局との協力と連携する。

観光のための商材として位置づける。

#### ⑦ 福祉

障がい者対応などにつとめる。

#### ⑧ 広報

紙媒体:ポスター、チラシ、市広報誌「どげなかね」、「美術館つうしん」、新聞広告

リーフレット 外国語版(英語・フランス語)の制作

放送媒体:テレビ・ラジオ CM 行政告知

インターネット:公式ウェブサイト、各種 SNS

パブリシティの活用 プレスリリース

#### ⑨接遇

親しみやすく親切な接遇をひきつづき心がける

おもてなしのお抹茶サービスを実行する。

併設レストラン「やまさや」と、引き続き協力する。

感染症の予防については、引き続き十分に配慮する。

## Ⅲ 運営全般

### 1. 人材の確保

① 次世代の学芸員の確保 が急務

② ボランティア、サポーターなどの制度の確立を目指す。

### 2. 事業資金の確保

① 各種ファンドの調査と申請に力を入れる

# 加納美術振興財団の基本理念「平和を願い続ける美術館」

## (財団の目的)

- ・美術館の運営管理と展示公開、調査研究
- ・芸術鑑賞の意識を高める
- ・地域に根差した芸術文化の発展に寄与する

## (財団の事業内容)

- ①美術館の管理運営
- ②美術館資料の公開、保管、展示
- ③美術館資料に関する調査研究、講演会、研究会等の開催
- ④芸術鑑賞の意識を高め、画家加納莞菴の目指した恒久平和へ向けての思いをベースに地域芸術文化の発展に寄与するための事業

1. 人材の確保  
＝学芸員、サポーター、ボランティア
2. 事業資金の確保  
＝各種ファンド

運営全般

## 2025年度事業計画案

### 自主事業

○加納莞菴の業績等の周知と次世代への継承

○美術品修復・および購入

○加納美術館企画展

企画：三つのキーワード

- ①平和
- ②地域性と地元出身作家
- ③収蔵品活用

- ・加納莞菴文書を市の文化財に
- ・UNESCO世界の記憶再登録挑戦
- ・学校、交流センターなどへの講演活動
- ・バーチャル美術館の活用

- ・バーナデットワッツ絵本原画展（平和）
- ・昭和100年戦後80年安部朱美創作人形展（平和・地元）
- ・こうげいやすぎ 広瀬耕のいま 永田佳子と伝習生（地域）
- ・鈴木禎三陶展窯変天目と備前焼（収蔵品含む）

### 共通項目

- ①資料の保存・保管 → デジタルデータベースの完成と活用、寄贈作品の受け入れ、修復
- ②資料の展示 → 収蔵品展・常設展、企画展
- ③資料の調査・研究 → デジタルデータベースの活用
- ④教育・普及 → 対話型鑑賞、講演会、ワークショップ、アウトリーチ

### 委託事業

○安来市加納美術館の管理・運営

- ・指定管理業者として
  - ・2023～2027(5年契約)
  - ・市条例に基づいた運営
  - ・収蔵品を活用した展覧会
- ・施設・設備管理  
＝庭園、除虫、除草、防カビ、修繕

- ⑤地域連携＝市内施設(和鋼記念館、歴史資料館、図書館)、文化協会、美術館博物館団体
- ⑥観光振興＝関係部局、観光協会との連携
- ⑦福祉＝障がい者対応など
- ⑧広報＝市広報、マスメディア、SNSの活用
- ⑨接遇＝親しみやすく親切に